

公益社団法人日本心理学会

認定心理士の会 × 新曜社 新刊連動講座

『自己の科学は可能か——心身脳問題として考える』

刊行記念イベント

オンライン
講座

脳・身体・ナラティブから見る 「自己の科学」

▶開催日時 2024年 **4/21** (日) 13:00～15:00 (開場12:50)

▶参加費 無料/定員500名/入退室自由

▶申込期限 2024年4月16日(火)

▶参加申し込みサイト <https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai-book/>

参加申し込みサイト



自己とは何でしょうか。21世紀に入った頃から、科学的な方法で自己の謎を解明しようとする研究が増えてきました。自己は脳によって作られるのでしょうか？ 脳を包み込んでいる身体性にどのくらい規定されるのでしょうか？あるいは、幼児期からの記憶と、その記憶が紡ぐ物語によって構築されるのでしょうか？この講座では、脳、身体性、ナラティブというキーワードを軸に、「自己の科学」に関する心理学を紹介します。(プログラムは裏面参照)

講師 田中彰吾・今泉修・金山範明・弘光健太郎 (本書編著者)



▶参加希望者限定特典

書籍『自己の科学は可能か——心身脳問題として考える』を特別価格でお求めいただけます。

定価 3,520 円の **20%OFF** ▶特別価格 **2,816 円** (税・送料込み)

購入期限：2024年5月29日(水)まで

購入申し込みサイト：<https://forms.gle/jg2njFZ4LwSUQiyj6>

または QR コード(↓)から

※お届けまでに1週間程度かかります。おはやめにお申し込みください。

購入申し込みサイト

田中彰吾 編著

今泉修・金山範明・弘光健太郎・浅井智久 著

新曜社刊、2023年、定価3,200円+税、A5判224頁

目次など詳細な書誌情報は↓

<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b636528.html>



12:50 開場

13:00 開会のあいさつ 司会 田中彰吾

13:10 ~ 13:30 (20分)

今泉 修 身体的な自己と物語的な自己

身体所有感や運動主体感といった自己感の機序に関する認知科学的知見が蓄積されてきたが、身体や運動に生じる自己感がナラティブおよびその要素となる記憶や言語とどのように関わるかについても今後探究する価値がある。運動主体感と記憶の関係や言語表現による自己感の変動に関する筆者の研究も交えて、この展望を議論する。

13:30 ~ 13:50 (20分)

金山範明 自己に関わる脳情報処理過程

自己感というところの働きはどのような脳神経基盤によって支えられているのか。自己関連情報、自己顔、自己運動、自己身体等さまざまな角度から行われてきた自己と脳の関連を明らかにする研究を時代背景とともに概観し、これまでの自己研究には何が足りなかったのか、これからの自己研究に求められるものは何かを考える。

13:50 ~ 14:10 (20分)

弘光健太郎 「私」はどこまで脳に還元できるのか

「私」は脳の中にいるのか。自己が脳に還元可能であると信じる人は多いと思われる。しかしこのような脳至上主義はどこまで信じられるのだろうか。本発表では、脳と心に関する研究を実践してきた立場から、自己を脳だけでなく、身体や環境、個人の来歴との相互作用から理解できる可能性を考え、自己研究の方向性を議論する。

14:10 ~ 14:55 (45分) 質疑応答

14:55 ~ 15:00 閉会のあいさつ

ご注意

本イベントは日本心理学会および認定心理士の会会員限定企画です。Zoom を使用したオンライン開催で、アーカイブ配信はございません。リアルタイムでご参加ください。録音・録画はかたくお断りいたします。

登壇者紹介

田中彰吾 (たなか・しょうご)

東海大学文化社会学部教授/文明研究所所長。理化学研究所客員研究員。博士(学術)。専門は現象学的心理学、身体性哲学。これまで一貫して、身体性の観点から心の科学の基礎理論を刷新する研究に取り組んできた。本書は、身体性に深い関心を寄せつつ心の科学を探究する研究仲間との議論を取りまとめた初の書籍となる。単著に『生きられた〈私〉をもとめて：身体・意識・他者』(2017, 北大路書房)、『自己と他者：身体性のパースペクティブから』(2022, 東京大学出版会) など。

今泉 修 (いまいずみ・しゅう)

お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所准教授。博士(学術)。専門は実験心理学、認知心理学。身体運動と認知の関係に関心を持ち、特に主体感・時間知覚・記憶について研究している。主要論文に「主体感の認知神経機構」『精神医学』61(5), 541-549, 2019 (共著) など。

金山範明 (かなやま・のりあき)

産業技術総合研究所(AIST) 主任研究員。博士(心理学)。専門は生理心理学。頭皮上脳波を用いた主観的状態の計測方法を研究している。主著に『脳波解析入門：EEGLAB と SPM を使いこなす』(2016, 東京大学出版会, 共編著) など。

弘光健太郎 (ひろみつ・けんたろう)

国際電気通信基礎技術研究所(ATR) 研究員(執筆時所属：日本学術振興会特別研究員 PD(東京大学))。博士(心理学)。専門は神経心理学、実験心理学、認知神経科学。脳損傷者における自己の障害の研究や非侵襲的脳刺激法による脳機能介入研究に従事。主要論文に Measuring the sense of self in brain-damaged patients: A STROBE-compliant article. *Medicine*, 97(36), e12156, 2018 (共著) など。

- 主催 公益社団法人日本心理学会 認定心理士の会・株式会社新曜社
- お問い合わせ先 公益社団法人日本心理学会事務局 ● 電子メール jpa-ninnokai-event@psych.or.jp